

日本線虫学会ニュース

Japan Nematology News

目次

巻頭言(二井一禎)	1
事務局から	
2003 - 2004 年度役員選挙結果	2
2003 - 2004 年度日本線虫学会事務局体制・会計監査および選挙監理委員	3
学会事務局移転のおしらせ	3
日本線虫学会誌への投稿募集	3
2003年度日本線虫学会大会(第11回大会)のお知らせ	4
記事	
Miwa Lab @ Chubu University (長谷川浩一)	7
PR: 「線虫の生物学」(東大出版会)(石橋信義)	8

巻頭言

二井一禎(京都大学)

近頃学会参加が少々億劫になった。もちろん体力が落ち、気力が長続きしなくなったからで、理由は今さら言う必要もあるまい。まだ給料のもらえない身分の時(今の若い人には信じてもらえないかもしれないが、私が定職に就いたのは35歳の時で、もう女房と二人の子供がいた)でも、年に2回、応動昆虫学会には欠かさず参加していたし、高い金を払って参加するのだから、必ず発表をするようにもしていた。学会発表は真剣勝負であった。それだけに用意はかなり周到にした。当時は、OHPや液晶プロジェクターは無かったので、スライド発表だけだ。手書きで墨入れした図を写真真屋に持ち込みスライドを作ってもらい、それらを並べて講演のストーリー作りをす

る。発表練習も何回か繰り返したが、最後の仕上げはいつも往きの電車の中になった。

学生をあずかる立場になってからも学会発表を重視し、卒論を完成したばかりの学生にも学会参加を求める。しかも、発表練習をかなり周到に行わせる。それは、彼らにとって学会発表の場が間違いなく研究の世界への登竜門であるからで、そこでは所属の壁を超えて多くの先輩達が、若い後輩の登場を暖かくも、厳しい眼で待ちかまえているからだ。私の場合も、発表のたびに、真宮さん(線虫学会元会長)や鈴木和夫氏(現、東京大学森林植物学講座 教授)が決まって質問をぶつけてこられたのを思い出す。質問内容はいつも発表内容の問題点を突く厳しいもので、まるで目の敵にされているようだと感じたものだが、後になって名前も実力もあるこれらの先生方にまと

もに相手していただいて果報者であったと思うようになった。鍛えられていたのだと。しかし、最近もう一つの見方もできるようになった。たとえ当時の私のように一介の学生でも、学会という場で発表する以上一人の研究者として対等であり、対等である以上、容赦の対象になどなるはずはない。これらの先輩も、実は真剣勝負を挑まれていたのかもしれない。

3年前にカナダのバンクーバーにあるサイモンフレーザー大学を訪問した。ウェブスター教授の好意で、その直後にケベックで開催された SON の大会に参加する学生たちの発表練習会を傍聴する機会を得た。学会参加に向けて発表練習をする学生の姿勢は真剣そのもので、彼らのひたむきさを通して、ウェブスター教授の学会発表を重視する姿勢が伺えるような気がした。カナダの学生にとっても、学会発表は研究者への道の重要な関門であるに違いない。

昨年の筑波での線虫学会で感じたことだが、最近わが線虫学会にも若い参加者が増えてきた。本学会にとってもこれは実に喜ばしい現象だ。いろいろな大学で線虫学を学ぶ学生が増え、明日の日本線虫学会をさらに発展させてくれることを祈ってやまない。そのために、石橋元会長をはじめ、諸先輩方が様々な形で努力を重ねてこられた。しかし、これらの若い後輩達が線虫学のおもしろさに魅了され、新たな視点でこの分野に参加してくれるには多くの障害があるのも事実だ。線虫学をメシの種に研究できる場を広げる必要がある。そして同時に、線虫学のおもしろさを若き後輩に伝える機会をもっと増やす必要もある。線虫学会に属す線虫学者のみならず、学会に登場する若き後輩達の数をもっと増やそうではありませんか。そんな中から、次代の、わが国

の線虫学者を鍛えていこうではありませんか。それにしても、今春、植物病理学会で北海道農試の植原健人さんが奨励賞を授与されたのは喜ばしい。平成10年に奈良部さんが同じ奨励賞を授与されたのに引き続き慶事だ。そんな若き線虫学者の活躍を目の当たりにするためにも、そして初心を忘れぬためにも学会に積極的に参加しなければと思う。

多くの優秀な先輩がこの学会をリードしてこられた。それらの先輩に比べてあまりにも微力に違いないが、若い人達のエネルギーが学問を切り開き、学会を活性化させることについては誰よりも承知しているつもりだ。大学に席を置く新米会長の唯一の取り柄かもしれない。この4月より学会長を仰せつかることになりました。皆さんどうかよろしくお願いします。

【事務局から】

2003 - 2004 年度役員選挙結果

去る2月行われた本学会会長および評議員選挙の結果は以下の通りです。

〔会長選挙〕

選出 二井 一禎（京大農）
次点 近藤 栄造（佐賀大農）

〔評議員選挙〕

選出 荒城 雅昭（農環研）
近藤 栄造（佐賀大農）
真宮 靖治
皆川 望（九沖農研）
三輪 錠司（中部大学）
水久保隆之（中央農研）
百田 洋二（北海道農研）
小倉 信夫（森林総研）
佐野 善一（九沖農研）

山中 聡(ISTE イー・IPI イテック)
次点 奈良部孝(北海道農研)

荒城 雅昭(農環研)
Bolla, R. I. (Saint Louis University)
Giblin-Davis, R. M.
(University of Florida)

2003 - 2004 年度日本線虫学会事務局体制・会計監査および選挙監理委員

評議員の承認を得て、2003 - 2004 年度は下記の体制で本学会を運営することになりました。なお、会計監査につきましては8月開催を予定している総会に提案し、承認を頂きます。

事務局長

水久保隆之(中央農研)

会計幹事

伊藤 賢治(")

庶務幹事

相場 聡(")

編集委員長

小倉 信夫(森林総研)

編集幹事

荒城 雅昭(農環研)

小坂 肇(森林総研)

前原 紀敏(森林総研)

ニュース編集小委員会

佐野 善一(九州農研)

串田 篤彦(北海道農研)

線虫関係国内文献目録編集

荒城 雅昭(農環研)

小坂 肇(森林総研)

会計監査

片瀬 雅彦(千葉県農総セ)

諏訪 順子(茨城県農総セ)

選挙監理委員

平田 賢司(横浜植防)

清野 敦子(野菜茶研)

編集委員

石橋 信義

岩堀 英晶(九冲農研)

近藤 栄造(佐賀大農)

小坂 肇(森林総研)

真宮 靖治

皆川 望(九冲農研)

三輪 錠司(中部大学)

百田 洋二(北海道農研)

小倉 信夫(森林総研)

佐野 善一(九冲農研)

白山 義久(京大理)

山中 聡(ISTE イー・IPI イテック)

学会事務局移転のおしらせ

評議員の承認を得て、事務局が九州沖縄農業研究センター線虫制御研究室内から移転しました。2003年4月1日から中央農業研究センター線虫害研究室内になります。

住所：〒305-866 つくば市観音台 3-1-1 .

Tel : 029-838-8839 ,

Fax : 029-838-8837 ,

会費振込先：郵便振替 00170-6-610102

日本線虫学会誌への投稿募集

充実した学会誌の発行のために、和文あるいは英文の本論文・総説・短報・資料等のご投稿を、大至急お願い致します。

投稿先

小倉信夫 nogura@affrc.go.jp

305-8687 つくば市松の里 1

森林総合研究所・森林微生物研究領域

病害制御担当チーム長

Tel 0298-73-3211(内)407・429

Fax 0298-73-1543

2003 年度日本線虫学会大会 (第 11 回大会)のお知らせ

大会事務局

2003 年度日本線虫学会大会を下記の通り帯広市で開催します。

帯広市のある北海道十勝地方は、広い耕地など自然環境に恵まれた、わが国を代表的する畑作・酪農地帯です。主要畑作物は、豆類、小麦、じゃがいも、甜菜(てんさい)などで、一戸当たり耕地面積は 31.6ha と日本の他地域では見られない雄大な農村風景を目の当たりにできます。近年は、ナガイモ、ダイコン、ゴボウ、ニンジンなどの園芸作物栽培にも力を入れており、キタネグサレセンチュウの被害が多発するようになりました。豆類のダイズシストセンチュウ被害とともにこの地域での重要な病害虫となっています。

今大会では、一般講演に十分な時間を充て、テーマを設けたシンポジウムは行わないことにしました。その代わりに、2日目の夜にはディスカッションセッション(十勝のワインとチーズを用意する予定)を、3日目には北海道の畑作地帯における線虫問題やそれらの克服をめざす研究現場を視察するエクスカ-ション(大型バス1台用意)を準備しています。

会場の「とかちプラザ」は、帯広駅前のアクセスに便利な場所にあり、会場内は160名の収容が可能です。なお会場周辺には、エゾリスの遊ぶ公園や街中に湧く温泉、全国的に有名な菓子店などが徒歩圏内にあります。また、ちょっと足を伸ばせば、雄大な自然とのふれあい・旬の味覚の食べ歩き・山奥の秘湯から近代的設備の温泉、etc.と多様な散策が日帰りで楽しみ、観光スポットにも事欠きません。

この機会にぜひ多数の会員のご参加をお願いします。

大会に関するお問い合わせは下記大会事務局までお願いします。

1. 大会事務局

〒082-0071 北海道河西郡芽室町新生
独立行政法人農業技術研究機構
北海道農業研究センター畑作研究部
環境制御研究チーム 奈良部 孝
Tel: 0155-62-9276, Fax: 0155-61-2127
E-Mail: narabu@affrc.go.jp

2. 日程

2003年8月27日(水)

13:00~14:00 総会
14:00~17:00 一般講演
18:00~20:00 懇親会

8月28日(木)

9:00~17:00 一般講演
18:00~20:30 イブニングセッション

(予定)*

8月29日(金)

8:30~16:30 エクスカーション
(昼食付)**

* イブニングセッション、エクスカ-ションの詳細内容はニュース発行時点で決定していません。日本線虫学会ホームページ(<http://www.affrc.go.jp:8001/senchug/index.html>)またはメーリングリスト「NEMANETJ」(入会は上記ホームページから)にて随時お知らせします。

** エクスカーションは帯広駅前発着、コースは帯広市~更別村~中札内村(昼食)~芽室町~帯広市を回り、希望があれば最後に帯広空港まで行くことも可。

3. 会場 (案内地図参照)

1) 大会

とかちプラザ 2F 視聴覚室

帯広市西4条南13丁目

(JR帯広駅より徒歩3分)

TEL: 0155-22-7890

<http://www.city.obihiro.hokkaido.jp/hp/data/page999970000/hpg999970000.htm>

2) 懇親会

ホテルノースランド帯広

<http://www.netbeet.ne.jp/~jrhotel/>

4. 参加費

大会参加費 2,000 円 (講演予稿集代を含む、学生参加費 1,000 円*)

懇親会費 6,000 円 (学生 5,000 円*, 7月16日以降一律 7,000 円)

エクスカーション費 3,000 円

(* 参加申込書の所定欄に担当教授等のサインが必要)

5. 参加及び講演申込み

大会参加及び講演を希望される方は、2003年7月15日(火)までに大会参加申込書と参加費を送付してください(郵送の場合は消印有効)。送金には同封の郵便振替用紙(口座番号: 02770-1-92720、加入者名: 日本線虫学会帯広支部)をご利用下さい。また、締め切り以降も大会・懇親会参加のみ受け付けます(¥1,000 up)。が、円滑な運営のため、締め切り日までに登録されるよう、ご協力をお願いします。エクスカーションはバス定員の関係上、35名を上限とします。締め切り以降はバス定員に余裕のある場合のみ、参加を受け付けます。なるべく早めに申し込みをお願いします。

講演を希望される方は、講演申込書とともに、講演要旨を下記要領に従って作成し、

7月15日(火)までに送付してください。申込書と講演要旨の送付先はそれぞれ異なりますので、ご注意願います。なお、講演要旨を受領しましたら、講演要旨事務局(農環研 荒城)より受領メールを返信します。受領メールが届かない場合はその旨、講演要旨事務局にお問い合わせください。

参加申込書・講演申込書(様式は巻末および線虫学会ホームページにあり; FAX, E-mail 可)

〒062-8555 北海道札幌市豊平区羊ヶ丘1
北海道農業研究センター 線虫研究室
日本線虫学会 11 回大会

プログラム事務局

Fax: 011-859-2178

E-mail: kushida@affrc.go.jp

講演要旨送付先

(E-mail または印字原稿の郵送)

〒305-8604 つくば市観音台 3-1-3
農業環境技術研究所

線虫・小動物ユニット内

日本線虫学会 11 回大会 講演要旨事務局

E-mail: arachis@niaes.affrc.go.jp

TEL: 029-838-8269

6. 講演発表

講演は1人1題とし、少なくとも共同発表者に本会会員を含むことが必要です。講演発表は、討論時間を含めて1題15分を予定しています。講演にはOHPまたはPCプロジェクターが使用可能です。講演申し込み時に発表手段を明記してください。PCプロジェクターの使用条件は、1) Windows環境のみ、2) 対応ソフトはPower Point、3) プロジェクター不具合に備え必ずOHP持参、4) 大会初日の総会開始前に受付にメディアを渡す - メディアはCD-Rのみ。メディアには講演番号と氏名、ファ

イル名を明記してください。Mac の方またはご自身のパソコンのほうがどうしてもよろしいという方はパソコンもご持参ください。また、35mm スライドでなければ講演不可能、という方は事務局にご相談下さい。OHPおよびPC プロジェクターはご自身で操作をお願いする予定です（操作補助要員が確保できない場合）。

7. 講演要旨の作成

講演要旨は、B5判用紙を使用し、横置きで、上下左右の余白を2.5cmとして作成して下さい。1行は全角45字、本文13行（全角585文字）、全体16行（タイトル行3行のとき）か17行（同4行以上）以内として下さい。1行目に演者名を記し（発表者の前に印、複数の場合は・で区切る）、続けて括弧（ ）内に所属の略称（所属が異なる場合は*、**印を付ける）、1字空けて演題、1字空けて上記事項の英文表記（氏名はNarabu, T.のように、所属はNat. Agr. Res. Ctr.のように省略して記す）を記載して下さい。本文は行を改めて次の行から始めて下さい。タイトル行はゴシック系（MSゴシックなど）、英文表記はCenturyまたはTimes New Romanなど、本文は明朝系（MS明朝など）フォント（12ポイントを推奨）を使用し、本文の英記号は半角を使用して下さい。巻末の見本も参考にして下さい。

講演要旨は「MSワード」または「一太郎」で作成し、電子メールの添付ファイルでの提出を推奨します。印字原稿の郵送でも受け付けます。講演予稿集は送られた講演要旨原稿をダイレクトプリントして作成し、大会参加者に会場で配布します。講演要旨は日本線虫学会誌 33 巻2号に掲載されます。

8. プログラム

大会プログラムは、本年8月発行予定の
本会ニュース No.30に掲載いたします。

9. 宿泊

大会事務局は宿泊施設の斡旋はいたしません。各自手配をお願いします。会場周辺の宿泊施設を巻末に紹介します。帯広観光コンベンション協会 <http://www.obikan.jp/>
帯広観光情報 宿泊スポット 帯広市の宿泊施設にて最新情報が入手できます。その他にも宿泊施設がありますが、会場と離れている施設を利用する場合は、交通手段をあらかじめご確認ください。

10. 交通

1) 飛行機

「とかち帯広空港」を利用します。路線はJALグループのみ（ANA未就航）で、東京便1日4便、大阪（関空）便1便、名古屋便1便です。いずれの便でも（東京便は午前発）初日の総会に間に合います。帰りの便は東京便のみ、プログラム終了後その日のうちに帰京できますが、その他の地域の方はもう1泊必要です。せっかくですから1泊以上して、帯広・北海道を楽しんではいかがでしょうか。ちなみに8/31~9/9はJALグループ片道1万円のバーゲンフェア期間中です。航空券も各自工夫のうえご購入下さい。

とかち帯広空港からは、航空機の到着に合わせて、JR帯広駅および市内ホテル行きのバスが出ています。所用約40分、¥1,000円。帯広空港へは航空機出発の約1時間30分前に、帯広市内（駅および各ホテル）からバスが出ます。十勝バス <http://www3.ocn.ne.jp/~kachibus/>、北海道

拓殖バス <http://www.tokeidai.co.jp/takubus/> を参照。

2) JR

札幌 - 帯広間は特急（スーパーおおぞら、スーパーとかち）が1～2時間おきに出ています（所用約2時間15分～2時間55分）。航空機で札幌便（新千歳空港）利用の場合は、JR 新千歳空港駅から札幌方面行き「快速エアポート」に乗車し、一駅目の「南千歳」で乗り換え、上記特急を利用し「帯広」駅まで行くのが便利です（所用約1時間50分～2時間30分）。

3) 自家用車

大会会場には無料の駐車場があり、利用できます（すぐ満車になること多し）。隣接する「長崎屋」にも駐車場がありますが、10:00～22:00までの利用となります。

11. 大会前後の観光案内

事務局では特に斡旋はしませんが、下記のホームページ等を参照のうえ、各自計画を立ててください。また、帯広駅ビル「エスタ」東館2階には帯広観光コンベンション協会や十勝観光連盟の事務所があり相談に乗ってくれます。当日配付する資料に、観光マップ・飲食店マップを入れる予定です。

- ・ 帯広観光コンベンション協会

<http://www.obikan.jp/>

- ・ とかち観光連盟

<http://www.tokachi-cc.ne.jp/>

- ・ とかちなび

<http://www.tokachi-navi.net/index.html>

上記ホームページにない情報やお勧め宿泊 & 観光スポット等は、個人宛（narabu@affrc.go.jp）にお問い合わせ下さい。できる限り対応したいと思います。

[記 事]

Miwa Lab @ Chubu University

長谷川浩一

（中部大学 生物機能開発研究所，
京都大学 大学院農学研究科）

2001年春、中部大学第5番目の学部として応用生物学部が開設しました。環境生物科学科の教授として赴任された三輪錠司先生のもとで研究をさせてもらう機会を得て、今年で3年目を迎えます。線虫学会会長になられた京都大学の二井先生の研究室所属ですが、私の研究指導を三輪先生に賜うことを希望し、応用生物学部の立ち上げの年からこの春日が丘（はるひがおか）のキャンパスで研究生活を送っております。スタッフは現在三輪錠司先生、さつき先生（三輪先生の奥さん）、私の3名です。来年度から環境生物科学科の学生が研究室に来るようになっておもいます。おもいますというのも、1学年に280人おりますが、研究室は20しかありません。大講座制なのでひとつの研究室に先生が1人です。14人の生徒をひとりの先生がいっぺんに指導するのも無理がありそうなので、4年生の卒業研究指導形態を現在協議中ということです。また、海外からの研究員やポスドクもこれから加わってくる予定です。

本研究室では現在2つのプロジェクトに参加しております。そのひとつ「環境評価プロジェクト」は、生物機能と環境との相互作用を理解し、生物や人にとって望ましい環境をつくることを標榜しております。本研究室の具体的テーマは、マツ材線虫病の病原体であるマツノザイセンチュウの発生環境評価と発生制御機構開発の基盤研究です。もうひとつは、「食の安全プロジェクト」です。本研究室では、モデル生物であるエレガンス（*Caenorhabditis elegans*）

を用いて現在問題になっている様々な食品有害物質の生体への影響、生体内の分子応答について解析し、さらに特別なことをしないで（ダイエットサプリメントなどを飲む、などをしないで）ふだんの食生活から有害物質を緩和、抑制もしくは除去する方法の開発を目指しております。プロジェクト研究は、応用生物学部とは別の機関である生物機能開発研究所の管轄として行なわれております。応用生物学部/研究所には理学、農学、医学、工学分野出身の先生方がおられ、多様な研究をされておりますので、自分の専門以外のことにも触れることができます。自分とは別の視点から協議でき、また他分野どうしてプロジェクトを組むこともできますので、新しい発想が生まれ今までより次元を高くした研究が期待できます。皆様にはこれからもお世話になると思いますので、どうか御指導・ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

PR：「線虫の生物学」（東大出版会）

石橋信義

本書の「書評」を誰かに書いてくれと要望したところ、事務局から小生に書いてくれということになったので、これは書評ではなく PR です。私は現役時代、線虫学、土壤動物学、無脊椎動物学、応用動物学などを講義してきましたが、適当な教科書がなく毎年困っていました。私以上に学生が不自由であったようにみえました。それで退職したら教科書を作ろうと思ったわけです。幸いにも朋友の青木淳一君（横浜国大名誉教授）が東大出版会に介添えしてくれて、本書の出版という運びになりましたが、元来このシリーズ「何々の生物学」は専門性の高いものであったため、出

版会としては教科書という初めての取り組みとなりました。まず定価を 5000 円以下にする。そのため引用文献を極力少なくして、成書を優先することにしました。私の試みは植物線虫や動物寄生線虫を個別的に理解するのではなく、線虫学という一つの大きな枠の中に入れてみようということでした。実際学生には専門的に細かに講義しても、何の役にも立たないことを 30 有余年の経験で知らされてきました。それで自活性から寄生性まで、線虫学という一つの entity としてみようというのがこの本です。線虫でメシを食っている人達にとっては少し物足りないと思うかもしれませんが、専門的な知見が全く無いということが平易に述べられています。中味を大雑把に紹介します。

全体は 5 部 19 章からなり第 1 部では線虫という生物を総論的に述べています。まずどんな形をしているか（執筆者 白山）。どんな形で種族を維持しようとしているか（石橋）、系統発生はどのように分子系統解析されているか（神崎）。線虫といえば悪者という概念もあるが、便宜上有害と有用とに分けられていること（石橋）。生物学のなかで一躍寵児になった C エレガンスについては常識的な細胞系譜、細胞死のことなどから、遺伝学が形質分析に変換するポストゲノムの時代が考察されます（三輪）。第 2 部は地球上で最も個体数の多い自活性線虫について海水生線虫の多様性（白山）土壌線虫の物質循環、環境指標生物としての貢献（石橋）が述べられます。第 3 部は脊椎動物との関係が論述されます。人類との古い付き合いは紀元前 1500 年から記録があり、考古寄生虫学としても興味深く、邸宅土壌から検出

される種々の寄生虫卵から当時の食文化が推測されます（名和）。脊椎動物への感染過程は糞線虫を例にとって解説され、ここでは固有宿主、非固有宿主、終宿主、中間宿主、待機宿主などの概念が理解されます（多田）。霊長類と蟻虫を例にとって寄生虫の地理的隔離と宿主との共進化（長谷川）。また線虫感染においても T 細胞を中心とした免疫系の生体防御反応が起こり、組織内侵入には好酸球などの顆粒細胞が、腸管内の侵入者には肥満細胞や杯細胞による体外への排除が生体防御機構として働くことなども解説されます（丸山）。第 4 部は無脊椎動物との関係。先ず昆虫嗜好性線虫の代表選手としてカミキリと共生関係にあるマツノマダラカミキリが解説され、さらに進んで任意寄生として、キバチに偽産卵させる *Beddingia* が記述されます（真宮）。昆虫病原性線虫と共生細菌との共生関係はこの線虫の有効利用からも学習する必要があります（吉賀）。その観点からは伏兵型と漫遊型という線虫の戦略的行動様式も理解しておかねばならない（石橋）。最後の第 5 部で植物寄生性線虫が述べられますが、決して植物寄生を軽視しているわけではありません。各論的にはあまりに書くことが多すぎるので、今回はちょっと遠慮してもらった程度。でも絶対必要なことはネコブセンチュウやシストセンチュウと寄主植物との関係で、巨大細胞や多核体細胞の形成が植物細胞の脱分化によるものと考察しました（石橋）。実際の防除には線虫のレースが問題になるから、レースの生成と分布を解説してあります（相場）。菌類（きのこ）と線虫には腐植連鎖と生食連鎖があり線虫によって移動したり、線虫を移動させたり、将来面白い研究分野になると思われます（二井）。

最後に線虫による農作物の被害にふれます、被害額は全世界で年間約 8 兆円と推定されるが、残念ながらわが国では金額ではっきりした統計は得られていない。被害の多くは土壌病害のなかに入れられるし、防除に要した金額で換算するには単純過ぎる（水久保）。最後の「おわりに」はわが国の線虫学の大御所一戸稔先生に書いてもらいました。ダイズシストセンチュウの命名者としての経験談は長く残したいと思っています。

以上各章はもっと詳しく書いてあります。生物系理科学士の教科書ないしは副読本として適当と思われませんが、研究者にとっても自分が扱っている線虫の出自を知るうえに多少は参考になるでしょう。質問がある場合は E-メールで直接担当者に質問できるように各章の執筆者には E-mail アドレスをいれました。総頁が 300 頁以上となり、定価は学生がどれだけ買ってくれるかで決まりますが、今のところ期待できないので 5000 円以上になるでしょう。学会のとき展示しますが、そのとき氏名を書き込めば著者割引になります。7 月には上梓されるでしょう。



[編集後記]

学会運営体制が変わりました。二井一禎新会長を迎え、学会も新しい一歩を踏み出しました。私はニュース発行の担当を今号で引退します。至りませんでしたが、ご愛読有り難うございました。なお、紆余曲折(?)の末、私の所属する中央農研線虫害研究室が2年ぶりに事務局を担当します。事務局は九州沖縄農研線虫制御研究室に引き継ぎ担当戴けるものと期待しましたが、諸般の事情により継続は困難でした。事務局長として2年間学会を盛り立てて下さった九州沖縄農研線虫制御研究室の佐野さん、庶務幹事の岩堀さん、会計幹事の立石さん、大変ご苦労さまでした。今年度は久しぶりに北海道で大会が開催されます。第11回帯広大会は北農研(芽室)の奈良部さんの尽力で着々と準備が整いました。有意義なエクスカージョンも企画されています。多数の参加をお願い致します。ニュースは次号から九州沖縄農研の佐野さん、北海道農研の串田さんが担当します。

(水久保隆之)

テロ、戦争、通り魔、未知の伝染病、なんだか非常に物騒な世の中になっています。私のワープロはあまり教育を施されていないので“せんちゅう”だけを入力すると、線虫より先に”戦中“が出てきてしまいます。なんだか、笑い事ではすまない変換です。今年はアジア地域で線虫が関係する国際学会が韓国、中国、ロシア極東で、5月、7月に予定されています。無事開催されるといいのですが。SARSの蔓延を懸念して大相撲のソウル公演が延期され、成田空港経由で帰国したフィリピンの方がSARSで死亡という記事もできました。USAでの西ナイルウイルス流行の時は対岸の火事でしたが、今回は自分も巻き込まれる恐れが出てきました。早く、治療法や予防法が確立されるといいのですが。最後の編集後記は暗い話ばかりになってしまいましたが、今回の大会案内を読むと、帯広大会は楽しくなりそうです。では、2年間お世話になりました。

(吉田睦浩)

2003年 5月1日
日本線虫学会
ニュース編集小委員会発行
編集責任者 水久保隆之
(ニュース編集小委員会)

農業技術研究機構
中央農業総合研究センター
虫害防除部線虫害研究室
〒305-8666
茨城県つくば市観音台3-1-1
TEL : 0298-38-8839
FAX : 0298-38-8837
E-mail : mizu@affrc.go.jp

日本線虫学会ニュース第29号
ニュース編集小委員会
水久保隆之(中央農研)
吉田 睦浩(農環研)

入会申し込み等学会に関するお問い合わせは、学会事務局：農業技術研究機構中央農業研究センター線虫害研究室まで
〒305-8666
茨城県つくば市観音台 3-1-1
TEL : 029-838-8839
FAX : 029-838-8837
E-mail : aiba@affrc.go.jp

	名称 (50音順)	所在地 電話(0155)	室 数	人 員	料金の目安 (詳細は直接 問合せ下さい)	JR 帯広駅 より	温 泉
ホ テ ル	帯広グランドホテル	西 2 南 3 22-4181	64	114	S¥7,000 ~ T¥12,000 ~	車 3 分	
	帯広東急イン	西 1 南 11 - 2 27-0109	171	243	S¥6,500 ~ T¥12,900 ~ (税別)	徒歩 3 分	
	十勝ガーデンズホテル	西 2 南 11-16 26-5555	130	153	S¥6,500 ~ T¥11,000 ~	徒歩 2 分	有
	北海道ホテル	西 7 南 19-1 21-0001	116	293	S¥9,000 ~ T¥17,000 ~	車 5 分	有
	ホテルノースランド帯 広	西 2 南 13-3 24-1234	171	281	S¥9,000 ~ T¥17,000 ~	駅 直結	
ビ ジ ネ ス ホ テ ル	東横イン帯広駅前 (今年開業)	西 4 南 1 27-1045			S¥5,800 ~ T¥7,800 ~	徒歩 1 分	
	ホテルルートイン帯 広 (今年開業)	西 3 南 11 28-7200			S¥5,200 ~ T¥ 10,000 ~	徒歩 1 分	
	帯広ワシントンホテル	西 1 南 12-8 23-5111	223	253	S¥6,800 ~ T¥14,300 ~	徒歩 2 分	
	パークサイドホテル	西 3 南 6 23-5155	58	89	S¥7,000 ~ 和¥6,600 ~	徒歩 12 分	
	ビジネスホテル久保 田	西 1 南 7 23-5901	23	26	S¥4,400 ~ , T¥8,800 ~ 和¥4,400(税込)	徒歩 7 分	
	ビジネスホテルピア7	西 2 南 7-18-2 27-2700	51	57	S¥4,000 ~ 和¥8,000 ~	徒歩 5 分	
	ふく井ホテル	西 1 南 11 25-1717	101	130	S¥5,000 ~ , T¥10,000 ~ 和¥15,000 ~	徒歩 4 分	有
	ホテルウエスト	西 6 南 18 24-2050	35	42	S¥4,500 ~ , T¥8,000 ~ 和¥4,000 ~	徒歩 10 分	
	ホテル光南	東 2 南 19 23-7353	39	100	S¥4,800 ~ (税別)	徒歩 15 分	有
	ホテルつるや	西 2 南 10 23-2158	23	62	S¥5,000 ~ T¥9,400 ~ (税別)	徒歩 4 分	
	ホテル十勝イン	西 3 南 10 22-5151	67	95	S¥4,800 ~ , T¥8,000 ~ 和¥3,500 ~ (税別)	徒歩 2 分	
	ホテルニューオビ ヒ	大通南 12 23-6311	53	80	S¥4,800 ~ , T¥10,000 ~ 和¥5,200 ~	徒歩 3 分	
	ホテルパコ帯広	西 1 南 11 23-8585	268	381	S¥7,000 ~ , T¥11,000 ~ 和¥23,000 ~	徒歩 3 分	有
	ホテルパコ帯広2	大通 12 21-8585	54	64	S¥6,000 ~ , T¥9,000 ~ 和¥9,000 ~	徒歩 3 分	
	ホテルパコ帯広3	西 1 南 9 22-8585	69	78	S¥6,000 ~ , T¥10,000 ~ 和¥6,000 ~	徒歩 5 分	
	ホテルヒーロー	西 3 南 12 26-3161	137	144	S¥6,000 ~ T¥11,000 ~ (税別)	駅西 北口前	
	ホテルみのや	西 2 南 10 23-3607	25	30	S¥4,000 ~ T¥7,000 ~ (税別)	徒歩 3 分	
	ホテルホリデー	東 2 南 15-6 22-7000	41	100	和¥3,000 ~ (税込) 冬期間は暖房料¥200	徒歩 10 分	有
	ホテルやまこ	西 5 南 12 24-8383	28	48	S¥3,800 ~ , T¥6,800 ~ 和¥3,800 ~ (税別)	徒歩 3 分	
	ホテル若松	大通南 5 24-2371	77	130	S¥4,000 ~ , T¥8,000 ~ 和¥4,000 ~	徒歩 10 分	
ライラックホテル	西 3 南 19 22-3578	57	70	S¥4,400 ~ T¥4,100 ~	徒歩 10 分		

